

乗って支える
未来へ繋ぐ

くまもとの公共交通

電車やバス、タクシーなどの公共交通機関は、通勤・通学的手段として、また、車を持たない方、免許を返納した方等にとって欠かせない重要な移動手段です。また、公共交通機関を使うことは、環境保全や渋滞の緩和、地域の活性化など、私たちの暮らす社会をよりよくすることにも繋がっています。自家用車中心の生活を改めて見直し、多様な交通手段の選択肢の一つとして、公共交通を使ってみませんか？

公共交通を使うメリット

公共交通機関は、車と比較すると不便になる点もありますが、自分にも、環境にも、社会にもさまざまなメリットがあります。

1 健康の維持・増進

バス停や駅まで徒歩で移動することで運動量が増え、健康増進に繋がります。



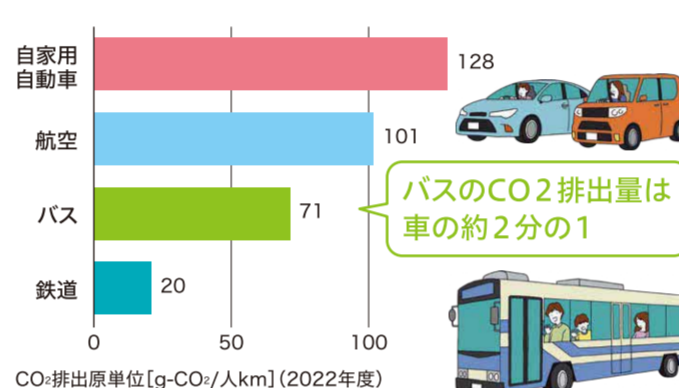
2 地域の活性化

地域住民の移動手段が確保されることで、コミュニティが維持できます。インバウンドをはじめ旅行者を呼び込み、にぎわい創出に繋がります。



3 環境保全

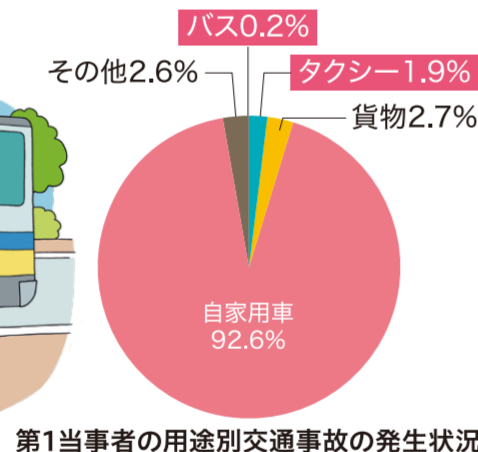
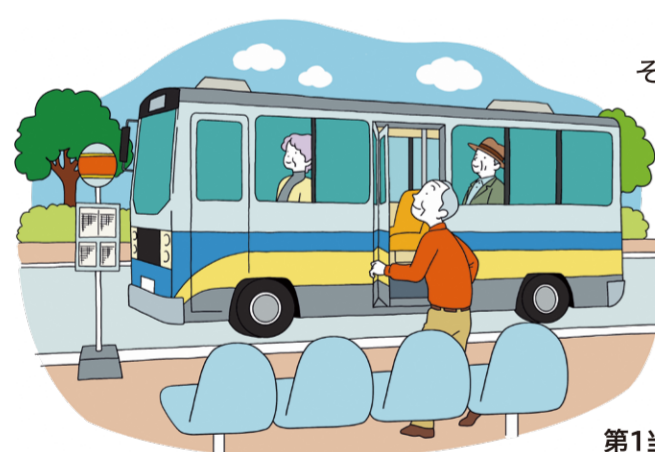
鉄道やバスを利用することで、二酸化炭素排出量を削減できます。



輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(旅客)
出典:国土交通省ホームページ

4 交通事故リスク軽減

近年、高齢者の運転による事故が増えていますが、公共交通を使うことで、事故の加害者となるリスクを減らせます。



第1当事者の用途別交通事故の発生状況
出典:熊本県警交通事故統計(令和5年中)

5 渋滞の緩和

バスや電車は一度に多くの方が乗って移動できるため、交通量が減り、渋滞が減ります。自動車利用が1割減ると、渋滞が大幅に改善されると言われています。



みんなが自動車に乗ると渋滞する道も



公共交通を使うことで分散でき、渋滞の軽減に

身近な公共交通

県内には、陸・空・海を繋ぐさまざまな公共交通が運行(運航)しています。その一部をご紹介します。



天草エアライン 有明フェリー



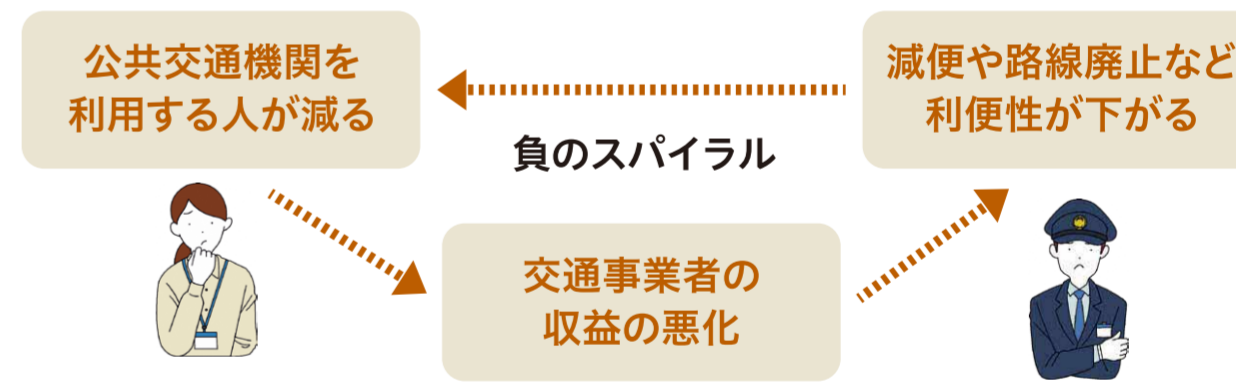
九州産交バス・産交バス 熊本バス 熊本電気鉄道(バス) 熊本都市バス



JR九州 南阿蘇鉄道 くま川鉄道 肥薩おれんじ鉄道

公共交通が抱える課題

人口減少に加え、新型コロナウイルス感染症の影響等により利用者が減り、地域公共交通は危機的状況にあります。利用者が減ると、公共交通はどんどん不便になり、さらに利用者が減るという悪循環が生まれています。



公共交通を将来にわたり維持していくためには
県民の皆さんの利用が必要です。

コミュニティ交通の充実

コミュニティ交通とは、鉄道や路線バスなど公共交通機関が利用できない、もしくは利用しにくい地域に導入される公共交通です。通院、通学、買い物など多様化する移動ニーズに対応するため、市町村が主体となってコミュニティバスや乗合タクシーを運行しています。



町を巡回するコミュニティバス(菊陽町)



AIデマンドタクシーで通学する小学生(天草市)



AI(人工知能)を活用し、最適なルートを探して走行します。

利用者の利便性向上に向けて

熊本都市圏のバス事業者5社による共同経営推進室では、利用者の利便性向上等に取り組んでいます。

共通定期券

定期券の区間内であれば全てのバス・電鉄電車が利用可能です。

180円均一運賃

熊本市内中心部エリアで完結する路線バスの運賃を、市電と同額の180円均一としています。

バス・電車無料の日・100円の日

熊本市を一部でも通過するバス・電鉄電車等を対象に、運賃無料や一律100円の日を実施しています。

180円均一エリア



熊本都市圏の交通渋滞解消に向けた県・熊本市のトップ会談が7月に開かれました。自家用車から公共交通への転換を図り渋滞を解消するため、自動車利用の1割削減・渋滞の半減・公共交通利用の倍増を目標に掲げました。



まずは、明日のお出掛けに、公共交通を利用してみませんか？



県では今秋以降「みんなで乗ってみんなで支える公共交通キャンペーン」を実施予定です！